第１編　公共の扉をひらく

第２章　公共的な空間における基本的原理

5 国家社会と人間性（3）　－実存主義

教科書　　pp.42 ～ 43　別冊解答　p.7～8

基本事項を整理しよう

実存主義の先駆　本来的な自己を求めて

1. デンマークの①　キルケゴール　は，ヘーゲル哲学を抽象的思考と批判し，「私がそれのために生き，そして死にたいと思うような②　理念　（イデー）」を求め，「③　主体性　が真理である」と主張する。
2. ①　によれば，理性と感情が分裂している人間は，選択の正しさを疑うことから④　不安　に陥り，さらに生きていくことに⑤　絶望　する。しかし，⑤　を通じて真実の自己，すなわち⑥　実存　　　に到達するという。
3. ①　が⑦　キリスト者　であったのに対して，⑧　ニーチェ　は反キリスト者であった。ヨーロッパ文明が衰退しつつあり，人びとは生きる意味や目的を失った⑨　ニヒリズム　に陥っていると主張する。その原因は，キリスト教で，社会的弱者に同情することを教えたが，それは強者への⑩　　　　　　　　（怨恨）に満ちた⑪　奴隷道徳　に他ならない。
4. それゆえ，「⑫　神は死んだ　」ということを認め，既成道徳を破壊してあらゆる価値の転倒をめざし，⑬　力への意志　により新しい価値を創造する⑭　超人　とならなければならない。
5. ⑭　は，すべてが繰り返されるという⑮　永劫回帰　の事実にもたじろがず，それを認め，運命として愛する（⑯　運命愛　），と主張した。

実存主義の成立と展開

1. ⑰　ヤスパース　は，人間は死・苦悩・闘争などの⑱　限界状況　に取り囲まれ，いずれはそれらに直面せざるを得ない。だが，自己の有限性を自覚し，自己を超える⑲　超越者　の存在を感じることで，⑥　に達する，という。
2. ⑳　ハイデガー　は，人間を㉑ 　現存在　と呼び，人間は世界のうちに投げこまれ（㉒　被投性　），さまざまな道具との連関の中で㉓　世界内存在　として生きている，という。
3. 没個性的な，誰でもよい誰かとして，日常に埋没している多くの人間のあり方を㉔　世人　（ダス・マン）と呼び，非本来的なあり方だと批判するが，自らが㉕　死へと関わる存在　であることを自覚することで，⑥　を回復すると考えた。
4. ㉖　サルトル　は「㉗　実存は本質に先立つ　」とし，⑥　が先で，自由な行為によって自らが何者であるかを定めるが，自由のゆえに人間は自分自身に責任を負わなければならない。

これを「㉘　自由の刑　に処せられている」という。

1. 人間は自由を行使するとき，他者と関わり，自己を社会に投げ込み，社会に拘束される。その関わりの中で，自由を行使して，社会をより自由なものへと変革していく。これを㉙　アンガジュマン　　　　　　　　（政治参加・社会参加）という。
2. ㉖　の協力者であった㉚　ボーヴォワール　は，「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」として，「女性」が社会的に作られたものであると主張し，のちの㉛　フェミニズム思想　に大きな影響を与えた。

★＋α

実存

現実に存在するもの，現実存在のこと。

実存主義

社会主義のような社会体制の改革ではなく，主体的な自己の生き方としての真理を求め，人間性の回復をはかろうとする。

反キリスト者

ニーチェは，人間を無力化させた原因は理性を過度に重視したからだとする。その基盤にキリスト教道徳があるとした。

実存への目覚め

ヤスパースは他者との実存的交わりが必要と考える。

ハイデガーの存在

「存在（ある）」と「存在者（あるもの）」を区別し，人間は「存在者」として世界に関わりながら存在している。

サルトルの「責任」

人間は自己に責任を負うことで，全人類に対する新しい責任があるとする。

シモーヌ= ヴェイユ

真理を探究する姿勢をつらぬき， ボーヴォワールら同時代の哲学者に影響を与えた。

図や表で整理しよう

キルケゴールの実存

|  |
| --- |
| 1. 美的実存　〕
 |

…「あれも，これも」と享楽を追求する

　　　↓絶望

|  |
| --- |
| 1. 倫理的実存　〕
 |

…「あれか，これか」の選択をして責任を引き受ける

↓絶望

|  |
| --- |
| 1. 宗教的実存　〕
 |

…自己の有限性と良心の呵責から〔④　罪　〕の意識に

おののく　→神の前に立つ〔⑤　単独者　〕として信

仰に生きる

★Point

キルケゴールが説いた実存に到達する三段階の内容を整理しておこう。

基本事項の確認

①キルケゴールやニーチェを先駆者として，社会主義とは異なる仕方で，人間を具体的に，また主体的にとらえ直す思考形態を何というか。

②キルケゴールは，宗教的実存の段階において，自己の有限性と良心の呵責から罪の意識におののきながらも，神の前に立つ者を何と呼んだか。

③ニーチェは，既成道徳を破壊してあらゆる価値の転倒をめざし，力への意志によって新しい価値を創造する存在を何と呼んだか。

④ヤスパースは，人間は限界状況において自己の有限性を自覚し，そのとき有限性を超えた存在を感じると説いたが，その存在を何と呼んだか。

⑤ハイデガーは，現存在である人間が，自己の非本来的な存在ではなく，本来的な実存を回復するために，自らをどのような存在と自覚しなければならないと考えたか。

⑥サルトルが説いた，人間が自由を行使して，社会をより自由なものへと変革していく社会参加のことを，カタカナで何というか。

1. 実存主義　②　単独者　③　超人　④　超越者（包括者）　⑤　死へと関わる存在　⑥　アンガジュマン

まとめてみよう

ハイデガーは，いかにして実存を回復すると考えているか，その内容をまとめてみよう。

ハイデガーは，人間の非本来的なあり方をダス・マン（世人）と呼んで批判し，人間自らが死へと関わる存在であることを自覚することによって，本来的な実存を回復すると考えた。

★ヒント

ハイデガーが「人間」をどのように考えていたかを中心にまとめてみよう。